資料１

戦略的情報通信研究開発推進制度

説明資料

平成１５年２月１２日

総　務　省

戦略的情報通信研究開発推進制度の概要

【目的】

情報通信技術の研究開発力の向上及び競争的な研究環境の形成による研究者のレベルアップの向上を図り、世界をリードする知的資産を創出することを目的とする。

【制度の趣旨】

「科学技術基本計画」（平成 13 年 3 月：閣議決定）、「情報通信研究開発基本計画」（平成 12 年 2 月：電気通信技術審議会答申）、および「我が国の情報通信分野における研究開発体制の在り方について」（平成 14 年 8 月：情報通信審議会答申）等を踏まえ、情報通信技術の研究開発の中でも重点的に取り組むべきとされる研究領域への重点的支援を行うものである。

【プログラムの種類】

【特定領域重点型研究開発】

①次世代ネットワーク技術　②周波数資源開発　③新機能・極限技術
④次世代ヒューマンインタフェース　⑤バイオＩＴ
分野の研究開発課題

【研究主体育成型研究開発】

①若手研究者（３５才以下）　②産学（官）研究共同体
が行う研究開発課題

【国際技術獲得型研究開発】

国際標準の獲得を目指す研究開発課題

【応募資格】

大学、民間企業、独立行政法人等の研究機関において研究開発を行うことのできる個人又はグループであることが必要。

研究主体育成型研究開発の場合は、これに加え　①３５才以下の若手研究者、②民間企業と大学等との連携により構成される研究共同体、であることも必要。

プログラム名	年間研究費	研究期間	新規採択件数
特定領域重点型研究開発	２０００万円 （※１）	３年以内 （※２）	①～⑤が 各々数件程度
研究主体育成型研究開発	（若手向け） １０００万円	３年以内	数件程度
	（産学官向け） ５０００万円	５年以内	数件程度
国際技術獲得型研究開発	５０００万円	３年以内	数件程度

（※１）　②周波数資源開発は１５００万円　　（※２）　③新機能・極限技術は５年以内

（※）研究費のほか、間接経費として研究費の３０％を別途配分。

（※）新規採択件数は、平成１５年度新規採択予定数

【応募件数と採択件数】

プログラム名	応募件数（※）	採択件数（※）	採択率（※）
特定領域重点型研究開発	１５５件	２６件	１７％
研究主体育成型研究開発	１６７件	１６件	１０％
国際技術獲得型研究開発	３０件	３件	１０％
合　計	３５２件	４５件	１３％

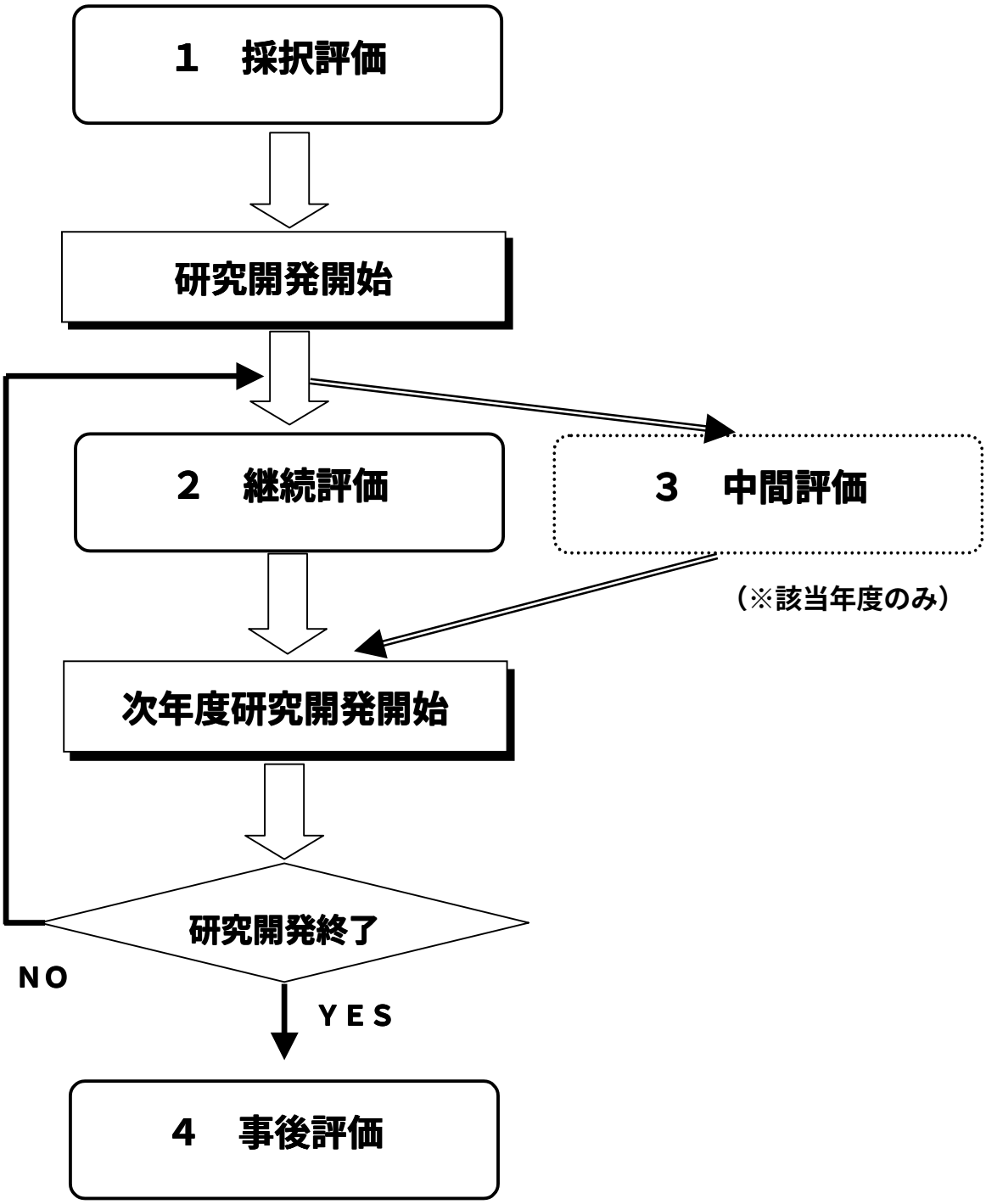
（※）平成１４年度実績

戦略的情報通信研究開発推進制度における
年間スケジュール（平成１５年度予定）

平成１５年	３月	新規課題の公募開始	研究者が提案書を提出 ※公募領域等については評価委員会の意見を踏まえ総務省が予め決定
	４月	公募締切	
	５月	専門評価（ピアレビュー）	提案課題の研究領域の専門家による技術を中心とした書面評価
	６月	総合評価（書面評価）	専門評価の結果、一定数に絞りここまれた課題に対して行う総合評価（書面評価）
	７月	総合評価（合議審査）	総合評価（書面評価）の結果、上位となった課題を中心に審査
	８月	採択課題等の通知	評価委員会からの評価結果の報告に基づき、総務省が採択課題を決定し、提案者に通知。採択されなかった課題についても、評価結果等の情報とともに提案者に通知。
	９月	研究開発の開始	
	１０月		委託研究契約の締結 ※概算払希望先へ委託費を支出
	１１月		
	１２月		
平成１６年	１月	継続提案	
	２月	継続評価	
	３月		
	４月	研究の継続（H16 度）	委託研究（継続）契約の締結 ※概算払希望先へ委託費を支出

※公募開始時期については、今後、前倒しを図っていく予定

戦略的情報通信研究開発推進制度における評価の流れ



戦略的情報通信研究開発推進制度における採択評価について

新規課題の公募

研究者が提案書を提出

↓

評価者の選任

提案課題の専門領域に応じたピアレビューアーを選任

↓

専門評価（ピアレビュー）

提案課題の研究領域の専門家による、技術を中心とした書面評価
・科学的・技術的知見の向上
・目標・計画及び実施体制の妥当性
等について評価

↓

総合評価（書面評価）

専門評価の結果、採択予定件数の一定数（２～３倍程度）に絞り込まれた課題に対して行う、社会的波及効果、費用対効果を含めた総合評価

↓

総合評価（合議審査）

総合評価（書面評価）の結果、上位となった課題を中心に、評価委員の合議の上、採択候補を決定

↓

採択課題の決定

評価委員会からの評価報告の結果に基づき、総務省が採択課題を決定

戦略的情報通信研究開発推進制度における
継続（中間）評価について

継続提案

研究者が継続提案書を提出

↓

継続評価（書面評価）

目標達成度
今後の目標・計画の妥当性
科学的・技術的知見の向上(※)
社会経済への波及効果（※）
費用対効果（※）
等について評価

↓

継続評価（合議審査）

書面評価の結果、研究の中止等研研究計画の変更を求める必要があると判断される場合には、評価委員会において継続の可否等について審議。

↓

継続課題の決定

評価委員会からの評価報告の結果に基づき、総務省が継続課題を決定

注）※は３年経過時の中間評価実施時に適用する評価項目

戦略的情報通信研究開発推進制度における
事後評価について

終了報告書の提出

研究者が終了報告書を提出

↓

事後評価（書面評価）

目標達成度
費用対効果
科学的・技術的知見の向上
社会経済への波及効果
等について評価

↓

事後評価（合議審査）

書面評価の結果、特に審議すべき事項があると認められる場合には、評価委員会において審議を行う

↓

総務省へ報告

評価委員会における評価報告について総務省へ報告

戦略的情報通信研究開発推進制度における
評価者の選定手順・決定者について

【専門評価（ピアレビュー）：採択評価】

１　ピアレビューアー・プール

大学・民間・独法等に所属する若手を中心とした第一線の研究者を専門評価委員として登録（登録者６１２名）している。

専門評価委員の専門分野（研究領域）を事前に登録し、当該分野の課題について提案があった場合には、総務省が書面評価を依頼している。

２　課題評価者の選任方法

評価者の選任はプログラムオフィサーの知見を活用しつつ総務省において実施している。

提案者が自己申告する研究領域に応じて、その課題を評価するに相応しい当該研究領域を専門分野とする専門評価委員を選任している。（評価者数は、１つの提案課題につき、５人～１０人程度）

選任にあたっては、提案課題と評価者の組み合わせに偏りが生じないよう、課題評価可能な対象者の中から無作為に選任している。

さらに平成１５年度以降は、より一層適切な評価者の選任を行うため、データベース上に登録されている評価者情報（経歴や過去の評価実績等）を、評価者の選任時に活用していく予定である。

【総合評価：採択評価】

１　総合評価委員の選任方法

社会的波及効果、費用対効果といった観点も含めた総合的な評価を実施するため、情報通信分野に関し幅広く知見をもつ外部専門家・外部有識者の中から総務省が選任している。

２　課題評価者の選任方法

専門評価と同じく、評価者の選任はプログラムオフィサーの知見を活用しつつ総務省において実施している。

書面評価における評価者数は、１つの提案課題につき、５人～１０人程度としている。

【継続（中間）評価、事後評価】

総合評価の場合と同様の方法により評価者の選任を実施している。

戦略的情報通信研究開発推進制度における
グループ研究の審査等について

【グループ研究による応募】

本制度においては、個人研究あるいはグループ研究のいずれでの応募も可能としている。

【グループ研究の必然性・妥当性等の審査】

グループ研究を行う場合には、研究開発の実施にかかわる構成員の役割分担、構成員が使用する研究設備のほか、構成員が所属する全ての研究機関の会計責任者について明確に記載した資料（研究体制説明書など）を、提案時に提出するよう求めている。

採択評価においては、研究開発の全体内容に加えて研究体制説明書に記載されている研究内容の分担体制、各々の構成員が使用する研究設備（既存設備又は購入予定設備）の内容を審査することにより、研究内容の実施体制・分担体制が適切かどうか、あるいは研究分担者への研究費配分額が妥当かどうかについて評価を行っている。

なお、研究代表者は構成員への研究費配分等を含む研究開発全般に責任を有する立場であることから、提案の作成及び応募については研究代表者の責任において記載、応募しなければならないものとしている。

制度改革の方向性・実施にあたっての考え方について

【制度改革の方向性・実施について】

競争的資金の効果を最大限に発揮させるためにも、総合科学技術会議を中心とし、政府全体で制度改革に向けた取組みを行っていくことは必要と考える。

総務省としても、総合科学技術会議での議論等を踏まえ、制度改革に向け積極的に取り組むこととしたい。

【プログラムオフィサーの配置・位置付けについて】

プログラムオフィサーの配置・位置付けについては、総合科学技術会議の方針をできる限り尊重していきたいと考えているが、競争的資金制度の目的、評価システム、あるいは資金配分状況等については、各制度毎に大きな違いがあり、プログラムオフィサーに求められる役割・配置についても異なるものと考えられる。

各制度の実情に応じたプログラムオフィサーの適切な役割・配置が可能となるよう、自由度の高い制度とすることが必要と考えている。